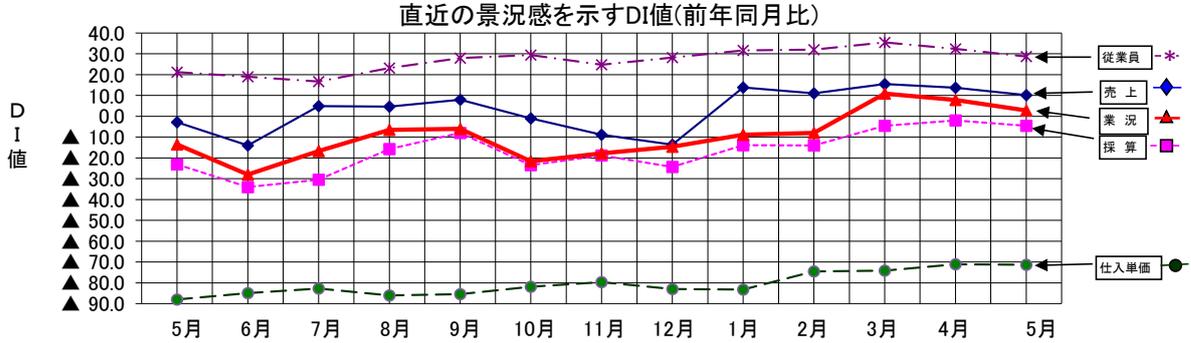


早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 7月分

【7月の概要】 景況感は下落傾向にあるも、先行き見通しは上昇傾向 コスト高、人手不足等による利益圧迫で苦しい状況続く

直近の景況感を示すDI値は、全ての項目で前月より下落し、「採算」は19か月連続でマイナス水準となっている。一方、先行き見通しを示すDI値は、「従業員」以外の全項目で改善の見通しを示しており、前月比で、「採算」は10.1、「仕入単価」は11.8ポイントと2ケタの上昇となっている。

コメントでは、新型コロナの5類への引下げにより、売上は回復傾向にあるものの、引き続き、原材料費等の高騰や人手不足等が深刻との回答が多く、利益圧迫の状況をどう乗り越えていくかが課題となる。引き続き苦しい状況が続くことが予想される。



【直近の景況感を示すDI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合) ※従業員=(不足)-(過剰)
(Diffusion Index の略)

	2022年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	2023年 7月
売上	▲ 2.9	▲ 14.0	▲ 4.9	▲ 4.6	▲ 8.0	▲ 1.0	▲ 8.9	▲ 13.6	▲ 13.9	▲ 11.0	▲ 15.5	▲ 13.7	▲ 10.2
採算	▲ 23.1	▲ 34.0	▲ 30.4	▲ 15.7	▲ 8.0	▲ 23.5	▲ 18.8	▲ 24.3	▲ 13.9	▲ 14.0	▲ 4.6	▲ 2.0	▲ 4.6
業況	▲ 13.5	▲ 28.0	▲ 16.7	▲ 6.5	▲ 6.0	▲ 21.6	▲ 17.8	▲ 14.6	▲ 8.9	▲ 8.0	▲ 10.9	▲ 7.8	▲ 2.8
仕入単価	▲ 88.0	▲ 85.0	▲ 82.8	▲ 86.1	▲ 85.5	▲ 81.9	▲ 79.7	▲ 83.0	▲ 83.2	▲ 74.5	▲ 74.1	▲ 71.1	▲ 71.3
従業員	21.2	19.0	16.7	23.2	28.0	29.4	24.8	28.2	31.7	32.0	35.5	32.4	28.7

- ・プラス幅が減少したDI値：売上▲3.5ポイント、業況▲5.0ポイント、従業員▲3.7ポイント（需給均衡局面へ）
- ・マイナス幅が増加したDI値：採算▲2.6ポイント、仕入単価▲0.2ポイント

【向こう3か月間の先行き見通しを示すDI】

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
5月	9.1	▲ 7.3	1.8	▲ 48.2	31.8
6月	15.7	1.0	▲ 4.9	▲ 46.1	32.4
7月	16.7	11.1	2.8	▲ 34.3	32.4

- ・見通しが改善したDI値：売上1.0ポイント、採算10.1ポイント、業況7.7ポイント、仕入単価11.8ポイント
- ※「従業員」は先月から変化なし

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	電機	コロナ報道も下火になる中、工事の動きが活発になっており、半年後はかなり忙しくなると予想する。
	建設資材	資材高騰、職人不足により住宅販売価格が高騰。資金面で建てられない施主も増加している。
製造業	印刷	原材料の高騰を価格転嫁しづらい状況の中、ボーナスの支給など経営者の悩みは尽きない。
卸売業	食品	世界的な気候変動により、食品関連等輸入製品の価格上昇が今後も続くことが懸念される。
	調理器具	雇用調整助成金に代わる援助がない中、このコスト高の状況を乗り切れるかが心配。
小売業	食品	コスト上昇分をどこで稼ぐか。新しいビジネスモデルを構築しないと生き残れない。
	ホームセンター	物価高による消費者の買い控えは継続していくと予想している。
サービス業	ホテル	コロナ5類引き下げ以降、業績自体は順調に回復傾向であるが、人手不足は否めない。
	タクシー	コロナ前に戻る気配は感じられるが、コスト上昇により収益が大きく圧迫され利益が出ない状況である。
	看板	イベントの受注が戻ってきた。また、保留や延期になっていた案件も実施され、売上上昇が見込まれる。